

《横浜市感染症臨時情報》風しん第15報

風しんの流行が継続しています。

- ◇ 昨年6月からの流行以降、「**先天性風しん症候群**」の子どもが全国で10人報告されています(2010年は0件、2011年は1件)。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんにかかると、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「**先天性風しん症候群**」の子どもが生まれる可能性があります。
- ◇ 流行の中心である、20～40歳代男性の予防接種が流行阻止に重要です。特に、**妊婦さんと接する家族や周囲の方(友人や職場の同僚等)**は、予防接種を受けましょう。
- ◇ 「**妊娠を予定・希望している女性**」、「**妊娠している女性の夫**」を対象に予防接種の助成[※]を実施しています。

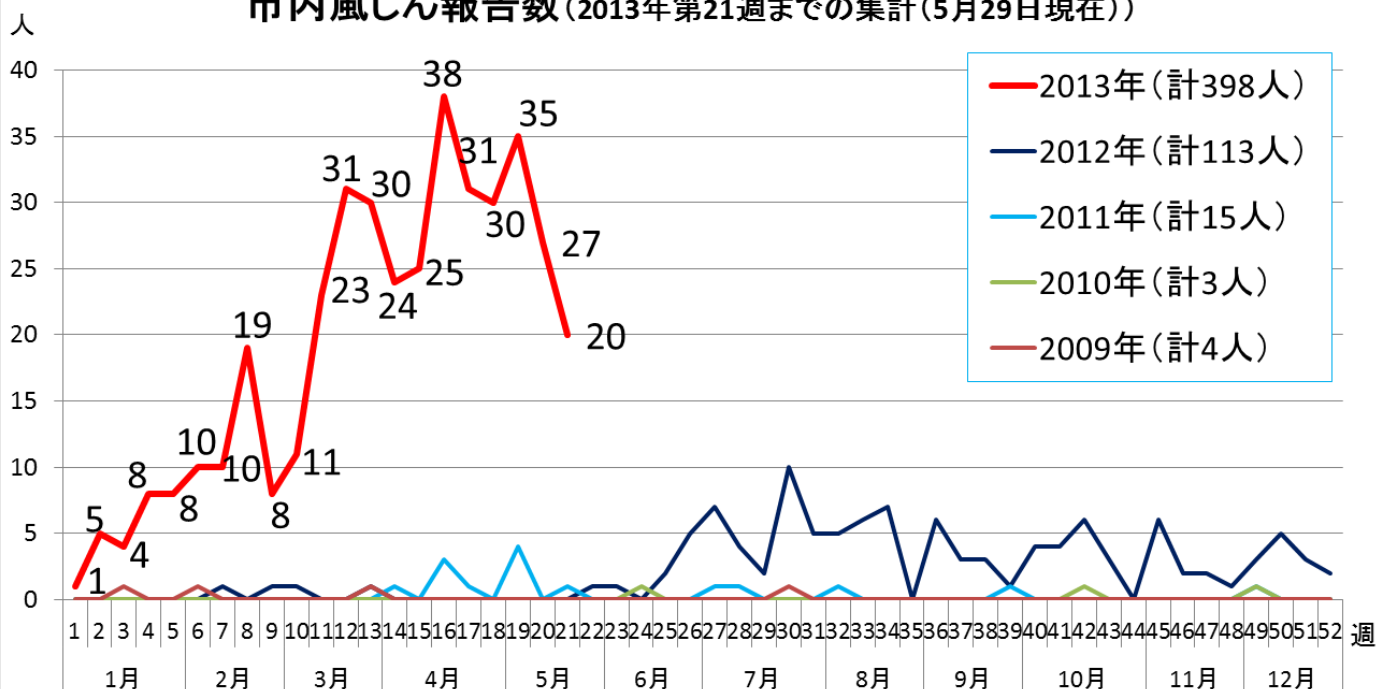
※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

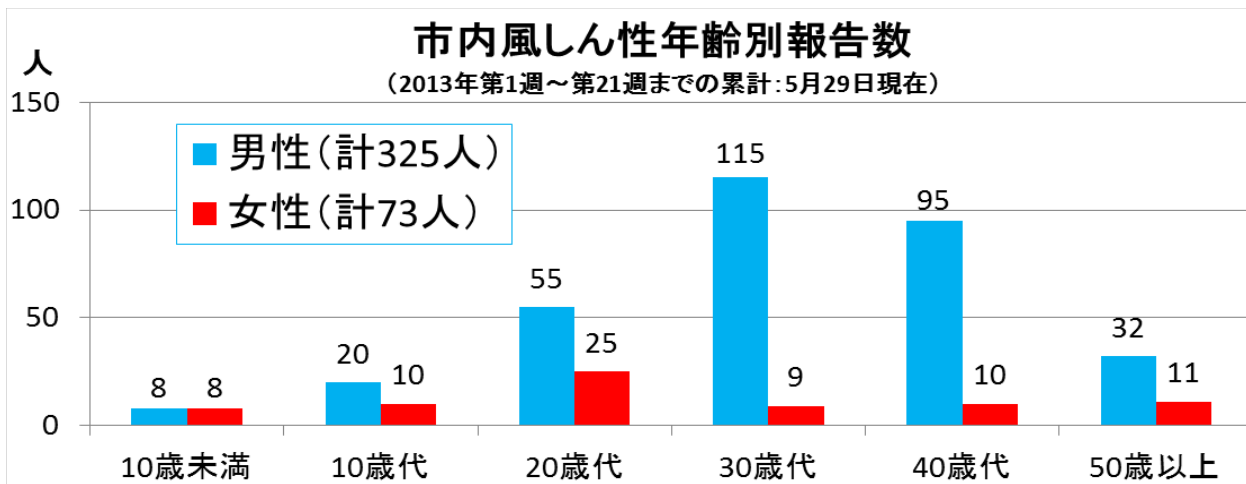
風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

- 1 市内流行状況:今年の初めから第21週(5/20～5/26)までの患者報告数累計が398人となりました。第19週の35人から、第20週27人、第21週20人と**2週連続で減少しましたが、依然として流行は継続しています。**

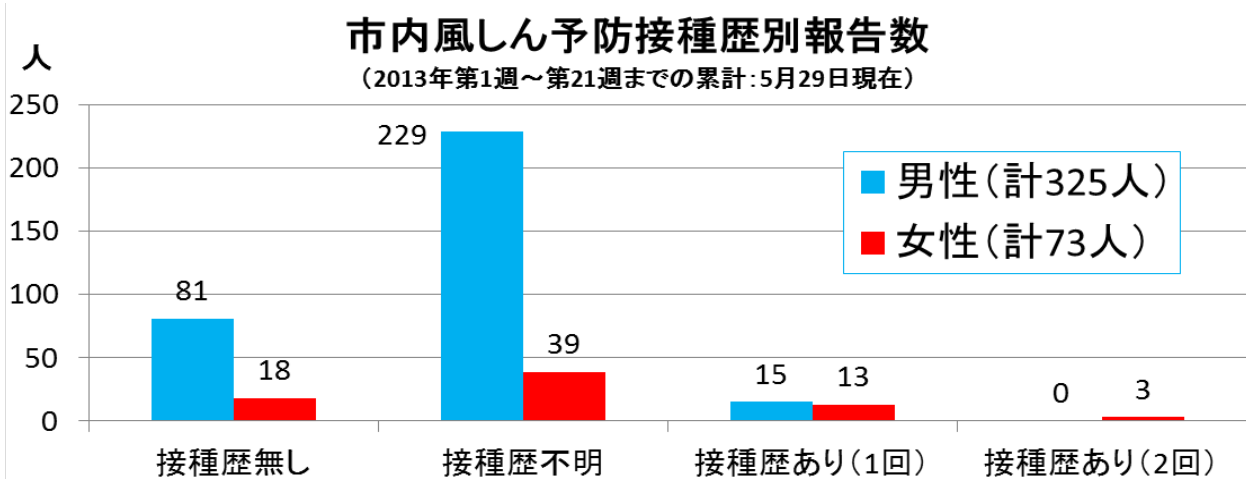
市内風しん報告数(2013年第21週までの集計(5月29日現在))



2 届出患者の性年齢別状況:患者のほとんどが男性(81.7%:2013年の患者 398 人のうち 325 人が男性)で、特に20~40歳代の報告数が多くなっています。女性では、20歳代の報告が多くなっています。



3 予防接種の接種状況:予防接種歴が確認されたのは31人のみで、他はすべて予防接種歴が無い、不明でした。**特に、男性では95.4%(男性325人中310人)で予防接種歴が確認されませんでした。**



4 先天性風しん症候群の発生について:市内では昨年、今年とも報告はありません。全国では、今年に入り5件(愛知県2件、東京都1件、大阪府1件、神奈川県(相模原市)1件)報告されています。

5 風しんの予防接種について

○定期予防接種(風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。)

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。標準的な接種期間は以下のとおりです。

1期:1歳以上2歳未満

2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

麻しん撲滅のためにもMRワクチンを受けましょう!

任意予防接種の助成

横浜市では、平成25年4月22日から9月30日まで、19歳以上の横浜市民で、「妊娠を予定・希望している女性(注:妊娠中は接種できません、接種後2か月は避妊をしましょう)」、「妊娠している女性の夫(婚姻関係は問いません)」を対象に麻しん風しん混合(MR)ワクチン1回分の助成(自己負担額3000円で接種できます)を行っています。定期予防接種(MR)協力医療機関で接種可能です。医療機関等、詳しくは[横浜市ホームページ](#)をご参照ください。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9815